

Japan Geoscience Union Meeting 2011

(May 22-27 2011 at Makuhari, Chiba, Japan)

©2011. Japan Geoscience Union. All Rights Reserved.



SCG064-05

会場:202

時間:5月24日 15:15-15:30

古生物情報に基づいた堆積物から読み取る侵食作用 Study of the erosion based on paleontological approach

市原 季彦^{1*}

Toshihiko Ichihara^{1*}

¹ 復建調査設計株式会社

¹ FUKKEN CO LTD

堆積物から得られる情報に基づいて侵食作用を読み取る事は困難である。長期的な堆積過程の中で生じる侵食は、地層中から読み取れる場合がある。特に古生物学的な情報を用いて侵食作用を読み取る方法を紹介する。

生痕を用いた侵食の推定:

生痕の形状観察から、侵食の有無、侵食状況を調べることができる。

ラグ堆積物中の貝殻遺骸:

ラグ堆積物は侵食によって形成された堆積物である。ラグ堆積物を調べることは、堆積・侵食の過程を把握する重要な手がかりとなる。ラグ堆積物中の貝殻遺骸群集解析を行った。侵食作用によって動いた貝殻を抽出し、その年代値を調べることで、どの程度の侵食が生じているのかを知る事が可能である。

キーワード: 侵食, 生痕, ラグ堆積物

Keywords: erosion, trace fossils, lag deposit